

【静岡県熱海市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含む多様な子どもたちに個別最適化された学びの環境を提供し、それぞれの資質・能力が一層確実に育成できるICT環境を実現します。

2. GIGA第1期（～令和6年度まで）の総括

本市では、令和2年度（令和3年1月）から、GIGAスクール構想に基づき、学習ネットワークを整備し、1人1台端末を導入しました。併せて、授業支援教材として株式会社L o i L oの「ロイロノート・スクール」を契約し、授業において意見共有などに活用しています。現在では、家庭への端末持ち帰りが行われている学校もあり、学習用ドリル教材としてラインズ株式会社の「eライブラリ」を活用した家庭学習体制も整っています。

また、GIGA第1期では、社会で広く採用されているOS「iOS端末」を選定し、円滑な運用ができたことから、次期端末も「iOS端末」を採用することとしています。

3. 1人1台端末の利活用方策

（1）1人1台端末の積極的利活用

①教職員へのサポート

Google Workspaceなどを活用した研修を実施し、教育現場での端末利用をサポートします。

②1人1台端末の普段使いの取組

市内の小中学校で1人1台端末を日常的に利用できるよう取り組みます。児童生徒が端末を家庭に持ち帰り、学習に活用する取り組みも積極的に進めます。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「教職員と児童生徒がやりとりする場面」「児童生徒同士がやりとりする場面」において、授業支援教材「ロイロノート」を活用し、効率的に学びを進められるようにします。

また、児童生徒が必要な時に他の児童生徒と交流できるよう、共有ノート機能を活用します。

「児童生徒が自分の特性や理解度、進度に合わせて課題に取り組む場面」では、教材「eライブラリ」を使用した補充学習の機会を提供し、児童生徒自身の学習意欲に対応できるよう、授業中だけでなく、学校生活全体で自由に学習できる環境を整えます。

これら5つの場面での端末活用方策については、課題の洗い出しや活用事例の共有を通じて、学校と連携しながら検討を進め、教育の質の向上を図ります。

（3）学びの保障

1人1台端末の日常的な利用を継続するだけでなく、様々な困難を抱える児童生徒への支援も進めます。具体的には、「不登校児童生徒の授業参加・視聴機会の提供」

「希望する児童生徒への教育相談の実施」「外国人児童生徒への学習活動支援」「障がいのある児童生徒や病気療養児など特別な支援を必要とする児童生徒への支援」などが考えられます。

Google Workspace の Meet 機能などを活用し、遠隔での情報共有や学習機会を確保するとともに、児童生徒間で興味関心を共有し、学びを支援します。

急増する外国人児童生徒が、日本語の壁に直面せず学習できるよう、翻訳アプリの導入や、母国語対応の端末設定を行うなど、学習機会の損失を防ぎます。